

1. 評価報告概要表

作成日 平成21年12月 7日

【評価実施概要】

事業所番号	1070101181
法人名	医療法人中沢会
事業所名	グループホームN・Sホーム
所在地	前橋市下大島町596-1 (電話) 027-266-4825

評価機関名	特定非営利活動法人 群馬社会福祉評価機構
所在地	群馬県前橋市新前橋町13-12
訪問調査日	平成21年11月24日

【情報提供票より】(平成21年10月31日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成13年3月1日		
ユニット数	3 ユニット	利用定員数計	27 人
職員数	20 人	常勤	12人, 非常勤 8人, 常勤換算 17.5人

(2) 建物概要

建物構造	木造造り		
	1階建ての	1階 ~	1階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(月額)	1,100円/日	円	その他の経費(月額)	出納管理料 60円/日 持込家電使用料 40円/日		
敷金	有(50,000円)					
保証金の有無 (入居一時金含む)	無		有りの場合 償却の有無	無		
食材料費	朝食	500	円	昼食	600	円
	夕食	700	円	おやつ	100	円

(4) 利用者の概要(10月31日現在)

利用者人数	27名	男性	3名	女性	24名
要介護1	15名	要介護2	11名		
要介護3	0名	要介護4	0名		
要介護5	0名	要支援2	1名		
年齢	平均 87歳	最低	72歳	最高	95歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	上毛病院、済生会前橋病院
---------	--------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

法人の広い敷地に病院と介護老人保健施設が設置され医療健康面の対応が充実しており、法人全体で地域における認知症介護の拠点を目指している。ユニット毎に食事献立を別にするなど独自性を出しながらも、それぞれ職員のきめ細く利用者一人ひとりに沿った対応は一致している。利用者は編物をしたり、水墨画を書いたり、家事をしたり思い思いに過ごし、ホームの庭では野菜や果物を栽培し収穫を楽しんでいる。また、職員は利用者と一緒に梅干やラッキョウ漬けを手作りし食卓を豊かにするなどさまざまな支援を行っている。家族も含めた一泊旅行を実施する等家族も一体となったホーム作りを大切にしており、ノウハウと個人に合ったきめ細かい対応の両立が図られている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回の外部評価では、これまでの理念に加えて地域との関係性を明示した理念の見直しや運営推進会議の構成メンバーの増員について指摘されている。検討した結果、理念については地域との関係性を明示し、メンバーの増員については引き続き努力していきたいとしている。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>今回の自己評価は計画作成担当者が職員の意見を聞いてまとめ、それを基に管理者が作成している。評価の意義は職員全員が理解しているが、各項目ごとについては確認していない。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>運営推進会議は2ヶ月毎に行われ、市職員や民生委員の他、在宅復帰した利用者家族が住民代表として参加している。活動報告、ヒヤリハット報告、各委員会の報告などが行われ、ホームを含めた法人全体の取り組みを理解してもらう機会になっている。また、参加者からの素朴な介護に関する質問に答えたり、庭仕事等ボランティアとして参加したいと意見をいただいている。</p>
重点項目③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>家族も参加する旅行を開催したり、リハビリの講演会を開催して家族同士の親密な会話や意見交換が持てる機会をつくらせている。職員は面会時等に、潜在的な意見や不満等を汲み取れるよう丁寧に対応することを心がけている。また、面会の少ない家族には少なくとも月に一度は電話をかけたりファックスを送り様子を知らせて、関係性が稀薄にならないよう個々に合わせた対応を心がけている。玄関には意見箱を設置している。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>毎日の散歩で挨拶を交わしたり、地域で開催される納涼祭や敬老会に招待され参加している。また、ホームのお知らせを自治会の回覧でまわってもらう等地域の人々と交流することに努めているが、身近な住民との交流が乏しい。今後は介護の拠点として機能できることを運営推進会議のメンバーである自治会長や区長に理解してもらいさらに地域に届けこみ、住民と近い交流ができるよう努めることを期待する。</p>

2. 評価報告書

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	精神科医師であった開設者の認知症高齢者に対する思いを柱に、各ユニット毎に管理者職員全員で考え独自の理念を作り上げている。地域密着型サービスとして「地域に根付き福祉の拠点として、様々な情報発信となるよう啓蒙活動に努める」は、3ユニット共通に掲げている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎朝、職員全員で理念を復唱している。また、日々利用者の表情を観察したり、声をかける時に気持ちがこもっているかどうか自身で振り返るようにするなど理念の実践に向けて取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	毎日の散歩で挨拶を交わしたり、地域で開催される納涼祭や敬老会に招待され参加している。また、ホームのお知らせを自治会の回覧でまわしてもらう等地域の人々と交流することに努めているが、身近な住民との交流が乏しい。	○	介護の拠点として機能できることを運営推進会議のメンバーである自治会長や区長に理解してもらい、さらに地域にとけこみ住民と近い交流ができるよう努めることを期待する。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	前回評価結果から地域密着型サービスとしての理念を見直すことや運営推進会議参加者増員の検討努力がされている。また、自己評価は計画作成担当者が職員の意見を聞いてまとめ、それを基に管理者が作成している。職員は評価を実施する意義を理解し前回指摘事項等に前向きに取り組んでいるが、評価の各項目内容の十分な理解まではなされていない。	○	自己評価を全員で取り組む意義を考え、作成時には全職員が各項目について検討し、自己評価を有意義に活用するよう期待する。
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は2ヶ月毎に行われ、市職員や民生委員の他、在宅復帰した利用者家族が住民代表として参加している。活動報告、ヒヤリハット報告、各委員会の報告などが行われ、ホームを含めた法人全体の取り組みを理解してもらい機会になっている。また、参加者からの素朴な介護に関する質問に答えたり、庭仕事等ボランティアとして参加したいと意見をいただいている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市の主催する会議に参加しアドバイスを受けたり、法改正や不明な点などの問い合わせをしたり、生活保護利用者の金銭管理や状況について連携をとっている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	ホームの行事や全体的な様子は写真つきの「NSホームたより」でお知らせし、個人の暮らしぶりや健康状態、職員の異動等については家族の面会時に報告している。また、面会の少ない家族には少なくとも月に一度は電話をかけたり、ファックスを送り様子を知らせて、関係性が稀薄にならないよう個々にあわせた報告をしている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会を設け、家族会も参加する旅行を開催し、家族同士の親密な会話や意見交換が持てる機会をつくっている。職員は、面会時の家族とのコミュニケーションを通じ潜在的な意見や不満等を汲み取れるよう丁寧に対応することを心がけている。玄関には意見箱を設置しており、意見が表出できる体制ができています。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	運営者は日頃から職員の相談やアドバイスに努めたり、適材適所に人員配置する等、異動や離職を必要最小限に抑える努力をしている。また、3ユニット合同で行事を開催したり、互いに訪問しあったり、夜勤者を一緒にする等、利用者が他のユニットの職員とも顔見知りの関係をつくり職員が入れ変わる場合に利用者のダメージを防ぐ配慮をしている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内で毎月1回定期的に行われている勉強会(衛生について等毎回テーマあり)や外部への研修には、本人希望も考慮して参加できる機会を確保している。外部研修を受けた職員は会議で報告したり伝達講習を行い、職員全員の育成を進めている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域密着型サービス連絡協議会で行う交換研修に参加したり、他の事業所の見学や現場の実技研修等の機会を持ち、サービスの質の向上に努めている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前に自宅や施設に事前訪問し、本人の状況や状態を把握している。また、家族と本人に食事風景等を見学してもらい家族と話し合いを重ねて、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう工夫している。入居後も電話で家族の声を聞く等利用者の精神面のフォローに努めている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	その日の気分や体調に合わせて利用者と食事のメニューを考えたり、調理や掃除を一緒に行うなど、共に支えあう関係を築いている。また、職員は利用者から長い人生経験で培った知恵や知識から個人的な相談に乗ってもらうこともあり、教わるが多いと感じている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	アセスメントやカンファレンスで本人家族の意向や希望を把握するとともに、職員が日常の利用者の状況や面会時の家族との会話等から情報を得て職員間で検討する等して、一人ひとりの思いや意向の把握に努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	月に一度の会議があり、介護計画作成前のカンファレンスにはできる限り本人や家族に参加してもらい、両者の意見や希望を取り入れて自立支援を念頭に職員がチームで話し合い、本人がより良く暮らせるよう介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	概ね4ヶ月毎に介護計画を見直している。また、利用者状態に変化が生じた場合には、毎日の申し送り時等に変化についての説明や職員で話し合いを行い、さらに面会時やモニタリング時等で本人、家族と意見交換しながら状態に合わせた介護計画の作成をしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	家族が予定していた通院の都合がつかなくなった時の送迎、買い物のための外出、帰宅願望が強い時等のドライブ等、本人や家族の希望や状況その時々々の要望に応じて柔軟に対応している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医は本人や家族の希望により決められている。法人内の医師の往診が随時行われており、外来希望等あれば往診の医師が紹介状を書くなど適切な医療を受けられるように支援している。また、利用者の状態についてや受診後の対応方法等は看護師が窓口となり医療面の支援を円滑にしている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した場合について、「看取りに関する指針」を定め、入居時に説明を行い了承を得ている。終末期については併設病院があり365日24時間支援を受けられるが、ホーム内の医療的対応の限界や職員の方針共有は現在は検討中である。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねることがないように職員は入室時は必ず声をかける、基本的に同性の介護者とする、入浴時は必ずタオルで身体を隠す等注意を払っている。また、記録にイニシャルを使用したり、個人情報の利用に際しては許可を得るなどしている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者一人ひとりのスペースを大切に、編物をしたり、水墨面を書いたり、散歩をしたり、食事の準備を手伝う等、時間を区切らずに本人の希望にそってその人らしい暮らしができるよう支援している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は、ユニットごとにそれぞれ利用者の好みを伺いメニューを決め、食材の買い物、下ごしらえ、食器の準備や後片付けなどできることを職員と一緒にに行い食べることで、食事が楽しみとなるよう支援している。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は、週3回14時から16時30分の間に行っている。曜日の交換や入浴時間の長さ、入るタイミングや洗い方等は利用者の希望にあわせている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	一人ひとりの希望に合わせて野菜の皮むき、いんげんのスジとり、大根のすりおろしなどの調理の手伝いや食器洗いをしていただいたり、時には昔の流行歌をみんなでいっしょに歌ったり、その人らしく張り合いや喜びのある日々を過ごせる支援をしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	毎日の散歩の他に食材や日用品の買い物に出かけている。帰宅願望による不穏時など個々にあわせてドライブをしたり、2～3ヶ月に1度近隣に外出に出かけるなど外出支援をしている。また、春・秋にはバスハイクや家族も一緒に一泊温泉旅行に行く等積極的な外出支援を試みている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	職員は鍵をかけないことの大切さをよく理解しており、一人ひとりに目配りするなど安全に配慮しながら日中は出入り自由となっており、センサーによるブザーを設置して安全確保を図っている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	避難訓練を消防署の指導のもと、昼間と夜間年2回行っている。災害対策マニュアルがあり、職員は消火器の訓練や利用者の誘導訓練を行っている。運営会議等で提案し、地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量と水分量は利用者ごとに記録し、1日を通じてどの程度確保できたか把握できるよう支援している。体重を半月ごとに測定し、併設老人保健施設の管理栄養士が週に1回訪れ、献立や行事食についてアドバイスをを行っている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居間や居室は自然の日差して明るく、換気扇や温度調節により気持ちよく過ごすことができる。各ユニットとも玄関や廊下等に季節感のある飾り付けをしたり、観葉植物を置いて、居心地良く過ごせるよう工夫している。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には使い慣れた整理ダンス、鏡台、椅子等が置かれ、家族の写真や自作の絵画、手づくりカレンダーが飾られ、温かく心地良い空間を作っている。		